

# 新型コロナウイルス感染症対策をめぐる 市民の態度及び行動の変化に関する研究

岡村 元太郎<sup>1</sup>・川端 祐一郎<sup>2</sup>・藤井 聡<sup>3</sup>

<sup>1</sup>学生員 京都大学 工学部地球工学科 (〒615-8540 京都市西京区京都大学桂)

E-mail:okamura.gentarou.32x@st.kyoto-u.ac.jp

<sup>2</sup>正会員 京都大学大学院 工学研究科 (〒615-8540 京都市西京区京都大学桂)

E-mail: kawabata.yuichiro.8x@kyoto-u.ac.jp

<sup>3</sup>正会員 京都大学大学院 工学研究科 (〒615-8540 京都市西京区京都大学桂)

E-mail: fujii@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界各国で経済的、健康的な被害や社会的な分断が問題となっている。日本でも政府が発令した緊急事態宣言に伴う自粛による経済損失や「自粛警察」による社会的な軋轢が発生している。しかし、これらに対する日本国民の態度や行動に関する研究は少なく、また特に時系列的な変化を加味した分析はほとんどない。

本研究では、2020年5月と10月に行われた「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」とその追跡調査から、2020年5月に比べ10月では、健康的な恐怖心、他人の目の恐怖心、自粛に賛成する度合い、自粛警察の度合いが有意に減少していること、テレビのキャスター・司会者を参考にする者は健康的な恐怖心が強く、他人の視線を恐れ、自粛警察になりやすいことを明らかにした。

**Key Words :** Covid-19, risk perception, vigilantism, peer pressure preventive behaviors, TV coverage

## 1. 本研究の目的と背景

### (1) 全世界に拡大する新型コロナウイルス

2019年12月8日に中国武漢で発生が確認された新型コロナウイルス感染症(SARS-CoV-2)は急速に拡大し、世界中で社会的、経済的に大きな影響を及ぼしている。

これに対して各国政府は2020年3月から7月にかけて感染症拡大防止策としてロックダウン(都市封鎖)等の行動制限措置を行った。また、2020年11月ごろから2020年12月現在にかけて、2度目、3度目のロックダウンを行っている国もある。

国内での感染拡大を受けて日本政府は2020年4月と2021年1月に「緊急事態宣言」を発令し、国民に行動の「自粛要請」を行った。

### (2) 厳格なロックダウンや自粛政策に関する論争

ロックダウンによる感染症対策は感染拡大抑制には効果があるという見方が多いが、感染症対策は経済的、社会的な影響を加味して多角的に捉える必要がある。また

それらの経済的、社会的な弊害を理由としてロックダウンに反対する意見もある。

例えば、Emmanuel Toddはグローバリズムの影響で国内の公衆衛生面での備えを縮小してきたがためにロックダウンをせざるを得なかったフランス政府を批判する中で、高齢者を救うために若者を犠牲にすることはできないと、外出再開を訴えた<sup>1)</sup>。また、日本の行った自粛で「人との接触を8割減らす」ことが「過剰自粛」であったという指摘もある<sup>2)</sup>。ロックダウンに関する研究に関して、Omels<sup>3)</sup>やAlvarezら<sup>4)</sup>は、感染拡大直後は厳格なロックダウンを行い徐々にそれらを緩くしていく「適度なロックダウン」が経済的に望ましいと理論的に論じている。

これらのことから、感染症対策としてのロックダウンや自粛政策は、その必要性が自明の対策というわけではなく、様々な形で意見の対立が生じていたことがわかる。

ただし世界各国において、全般的には、ロックダウンや自粛政策に対する市民の支持は非常に高いと言える。3月と4月の西ヨーロッパではロックダウンは、首相、大

統領の政党への投票意向、政府への信頼、民主主義への満足度を高めているという報告もある<sup>5)</sup>。日本においても11月20日～21日に実施されたアンケートでは「緊急事態宣言を出す」（再度緊急事態宣言を出す）については63%が賛意を示す一方、反対の人はわずか7%となった<sup>6)</sup>。

我が国の感染者・死者数は欧米諸国に比べて格段に少なく、先に述べたように自粛政策の必要性に対しては専門家からの疑念も提示されており、また経済被害が深刻であるにもかかわらず、ほとんどの市民が自粛政策を支持していることは不自然であるともいえる。我が国において、健康に対する恐怖が自粛賛成度を上昇させており、またメディアの影響が大きいという事実から、マスコミやSNSを通じて広がった情報により新型コロナウイルスに対する恐怖感が助長された結果、過剰に自粛推進の世論が作られた可能性も考えられる。実際、2020年5月21日から24日に土木学会が行ったアンケート調査(回答数1000)によると、外出時や公共交通利用時の感染確率について、市民は平均的に、客観的な確率の3000倍以上にも過大評価し、過剰に恐れているというような報告もされている<sup>7)</sup>。

### (3) 自粛警察の発生

新型コロナウイルスがもたらした問題として、「健康」被害と「経済」被害の拡大がしばしば挙げられる一方で、「社会的」な問題も生じている。その一つとして挙げられるのが、「自粛警察」と呼ばれる事象である。自粛警察とは、外出や営業などの自粛要請に応じない個人や店舗に対して、私的な取り締まりを行う一般市民のことを指すとされている<sup>8)</sup>。「自粛警察」の事例は、千葉県八千代市の駄菓子屋が4月下旬に、3月下旬から既に休業しているにも関わらず「コドモアツメルナ。オミセシメロ」という貼り紙をされた<sup>9)</sup>というものや、徳島県での県外ナンバーの車に対するあおり運転被害<sup>10)</sup>などである。なお英語圏では、自警団を意味するvigilantesあるいは自警行為を意味するvigilantismという語を用いて、‘virus vigilantes’や‘coronavirus vigilantism’等と呼ばれている。

日本人は感染予防行動の評価において、他者よりも自己を高く評価する傾向、すなわち自分よりも他者の感染症対策に厳しいという傾向があることが報告されており<sup>11)</sup>、こうした評価の違いが予防行動を巡る非難や争いの原因になっているのではないかという指摘もある。また自粛警察の傾向を強める要因として、周囲の視線を恐怖する度合い、年齢、男性であること、ワイドショーから情報を得ていること、が挙げられるとも報告されている<sup>12)</sup>。しかし自粛警察が生じる原因や自粛警察の度合いが変化する要因について、詳しく分析した研究はほとんど行われていないのが現状である。

### (4) 本研究の目的

我が国も民主主義の社会である以上、世論が自粛推進に傾いた場合は、何らかの形で自粛政策が推進されることになる。しかし上述のとおり、その世論がリスクの過大な評価に基づくものであったり、そのリスクの過大評価に基づいて自粛警察のような「差別」や「社会的分断」が起きたりすることは、健全であるとは言い難い。このような不健全な状況に社会が陥らないためには、自粛政策に対する支持がどのような心理的要因によって加速されているのかや、自粛警察の態度はどのような人において、どのような要因で高まるのかという社会心理学的な知見を得ておくことが重要である。なぜなら、それらが明らかになれば、その事実を踏まえて適切な社会的コミュニケーションを実践していくことで、バランスを欠いた世論が形成されることを防ぐことができる可能性があるからである。

これを踏まえて本研究では、土木学会・土木計画学研究委員会が2020年5月に実施した「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」（回答数1000）に2020年10月に実施した同調査の追跡調査（継続回答数797、新規回答数203）を加えたパネルデータを用いて、田中ら<sup>14)</sup>が作成した市民の態度を特徴づけるための各種指標「自粛賛成度」「感染症対策実施度」「健康恐怖度」「自粛警察度」「他者視線恐怖度」を規定する要因を分析するとともに、各指標の高低に影響を与える要因を探索的に検討する。これらの指標に変化に影響を与える要因を特定することで、今後の政府の感染症対策立案時に市民の態度やその変容を適切に予測することを可能にし、健全な世論形成を促すことが本研究の目的である。

## 2. 既往研究と本研究の位置づけ

本章では、コロナ禍において、自粛をはじめとする政府の対策への支持、新型コロナウイルスのリスクに関する認識、対策行動の実施度合い、自粛警察度といった個人個人の傾向が、どのような要因によって生まれているのかに関し、現在までに明らかになっている既往研究の知見を整理した上で、本研究の位置づけについて述べる。

### (1) 政府の新型コロナ対策への支持に関する研究

第1章で述べたように、ロックダウンや自粛政策の意義については専門家の懐疑的な意見もあり、また経済的には大きな被害を伴うにも関わらず、ロックダウンや自粛政策への市民の支持は総じて高い。その支持を高める要因については、いくつかの研究例が存在している。

Jørgensenらは、8つの国（デンマーク、フランス、ドイツ、ハンガリー、イタリア、スウェーデン、イギリス、

アメリカ) に対して、インターネットで実施した新型コロナウイルスに関するアンケート (n=30421) を分析し、政権を支持する者、協調性の高い者、神経質な者、個人的に新型コロナウイルスを恐れている者、他者信頼度が高い者、新型コロナウイルスに対する知識の自己評価が高い者が、新型コロナウイルス対策として政府が行ったロックダウンなどの介入行動を支持していることを明らかにした<sup>13)</sup>。

土木学会・土木計画学研究委員会が2020年5月に実施した「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」の回答結果をもとに田中らがおこなった、市民の態度を規定する要因を探索する研究 (n=1000) では、健康恐怖度が高い者、テレビ (ニュース) から情報を得る者、専門家やインターネットの意見を参考にする者、他者信頼度が高い者は自粛を支持する傾向があり、ラジオから情報を得る者、コメンテーターの意見を参考にするものは自粛に反対する傾向があることを明らかにしている<sup>12)</sup>。

以上のように、「新型コロナウイルスを恐れている」「他者信頼度が高い」「テレビ(ニュース)から情報を得る」「専門家やインターネットの意見を参考にする」ような者ほど、ロックダウンや自粛政策を支持していることが示唆されている。

## (2) 新型コロナウイルスのリスク認識に関する研究

市民が新型コロナウイルスを恐れる度合いや、健康被害を受けるリスクの大きさに関する認識は、どのように形成されているのであろうか。

Yildirmらは女性は男性に比べて、新型コロナウイルスに対するリスク認知、恐怖心が有意に高いことを明らかにした。また同研究は、教育レベルが高いほど恐怖心が低いことも明らかにしている<sup>14)</sup>。

Ohらの研究では、感染症発生時のソーシャルメディアの役割を研究するために、2015年に韓国での中東呼吸器症候群コロナウイルス (MERS-CoV) の発生時に収集されたアンケートの分析を行っている (n=400) 。その結果、ソーシャルメディアの利用は「恐怖」と「怒り」の感情を介して、国民の「リスク認知」を高める効果があることを明らかにした<sup>15)</sup>。

以上のように、新型コロナウイルスに対する恐怖やリスク認知は、「性別 (女性であること)」「ソーシャルメディアへの接触」などによって強められていることが示唆されている。

## (3) 個人の対策行動に関する研究

Ohらの研究では感染症発生時のソーシャルメディアの役割を研究するために、2015年に韓国で発生した中東呼吸器症候群コロナウイルス (MERS-CoV) の発生時に収集されたアンケートの分析を行った (n=400) 。その結

果、ソーシャルメディアの利用は恐怖と怒りの感情を介して、国民のリスク認知を高める効果があることが分かった。そしてソーシャルメディアの利用は、恐怖と怒りの感情と、リスク認知を介して、予防行動を有意に増加させることが明らかになっている<sup>15)</sup>。

以上の研究は個人が自発的に実施する感染対策行動の促進要因を調べたものであり、「女性である」「自身の健康リスクが高い」「健康に関する恐怖度が高い」「リスク認知が高い」ような者ほど、感染症対策を積極的に行うことが示唆されている。

一方、政府による要請など、外発的な契機による対策行動の促進要因を調べた研究では、以下のような知見が得られている。

渡辺&藪は、日本における市民の外出量の変化の要因を明らかにするための調査を行い、緊急事態宣言や学校閉鎖などの政府の要請や指令を「介入効果」、メディアから得られる情報 (他県の緊急事態宣言なども含む) を「情報効果」として、両者の外出量に対する寄与率を分析した。その結果、緊急事態宣言の前後で減少した外出量の20%のうち7%ポイントは介入効果、13%ポイントは情報効果によるものであった。また、学校閉鎖の前後で減少した12%のうち5%ポイントは介入効果で、7%ポイントは情報効果であった。このように日本においては、情報効果が介入効果より高くなる傾向がみられている<sup>16)</sup>。

公益財団法人「新聞通信調査会」(西沢豊理事長) は20年10月30日から11月17日にかけて、全国の18歳以上を対象にメディアに関する世論調査を行った (n=3064) 。その結果、コロナ禍で外出自粛などの行動に影響を与えたもの (複数回答) は「新聞やテレビなどメディアの報道」が68%で最多であり「国の発表や要請」が59.1%であることを明らかにし<sup>17)</sup>。

以上の研究を踏まえると、少なくとも日本における研究では「情報効果」に一定の効果がみられており、メディアを通じた啓発活動は無意味ではないことが示唆される。

また、対策行動における「同調圧力」の有無についても研究が行われているが、たとえば日本人のマスク着用理由に関する研究において、見解が分かれている。

Nakayachiらは、日本人のマスク着用の理由は「自分や他人を感染させないため」というよりも「周りの人が着用しているため」であることを報告している<sup>18)</sup>一方、Sakakibara & Ozonoは、日本人のマスク着用の理由は「周りからの低い評価を避けるため」、「政府や自治体の指示に従うため」、「他の人が予防行動を行っているため」というよりも、「自分が感染しないため」、「他人を感染させないため」などであることを報告している。この点については、今後も詳しい調査が必要であろう。



#### (4) 「自粛警察」現象に関する研究

前節で述べたのは市民本人の対策行動の実施度合いの促進要因であるが、第1章でも述べたように、新型コロナ禍においては「他人の対策行動の不足」を強く非難するという「自粛警察」現象も生じている。その促進要因は何なのであろうか。

自粛警察に関する先行研究は非常に少ないものの、日本では土木学会・土木計画学研究委員会が2020年5月に実施した「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」の回答結果をもとに田中らが行った、市民の態度を規定する要因を探索する研究(n=1000)がある。この研究では「自粛警察度」を高める要因は「他者視線恐怖度が高いこと」「性別(男性であること)」「年齢が高いこと」「テレビ(ワイドショー)から情報を得ること」などであると明らかにした(エラー! ブックマークが定義されていません。)

SakakibaraとOzonoは、2020年4月28日(第1回, n=2281)と2020年5月3~5日(第2回, n=2791)にWeb調査を実施し、日本人のコロナ禍における心理や予防行動の規定要因に関する分析を行っている。その結果、日本人の自己高揚性(他人より自分に対する評価が甘くなる傾向)が、予防行動を巡る争いの火種になっていることが示唆されている。この研究では、日本人は感染予防行動の評価において、他者よりも自己を高く評価する傾向がある、逆に言えば自分よりも他者の感染症対策に対する評価が厳しい傾向があることが報告されており(エラー! ブックマークが定義されていません。)、このようなギャップも、自粛警察現象を引き起こす原因であることが示唆される。

以上のように、自粛警察に関する先行研究は存在するものの、その数は非常に少なく、今後もさらなる研究が行われる必要がある。

#### (5) 本研究の位置づけ

以上のように、自粛政策への支持、新型コロナウイルスの危険に対する認識、個人対策行動の実施、自粛警察態度などについて、様々な研究が行われて来ている。政府の政策への態度を規定する要因は、健康リスクだけでなく情報を得るメディアの違いや他者信頼度などさまざまであることや、地域や感染状況にも影響されることが分かっている。今後政府が感染症対策を実施する上で、人々の態度やその変化を予測することは重要である。また、個人レベルの感染対策行動の実施を規定する要因も、同様に健康リスクだけでなく多岐にわたることがわかっている。個人の対策行動を促す要因や、対策を行わない傾向がある者の特徴を知ることは、今後政府が施策を実施していく上でも重要である。それにくわえて、日本で社会問題となった自粛警察は2020年4月の緊急事態宣言以降も人々の行動に影響を与えている疑いがあり、一層の研究が必要である。

上述の研究は、これらの点について一定の示唆を与えるものであるが、海外の研究結果はそのまま我が国に適用できるとは限らず、また国内で行われている研究は特定の一時点の調査に基づくものばかりであり、2020年度に限っても数カ月間のあいだに大きく変化した感染状況を踏まえた調査とはなっていない。

そこで本研究では、土木学会が2020年5月と10月の2時点でおこなった調査の結果を用いて、この数ヶ月間の変化を加味しつつ、自粛などの政府の感染症対策に対する支持、個人の感染症対策行動の実施度、健康恐怖度、自粛警察度、他者視線恐怖度の規定要因を探索的に検討することとする。

### 3. 研究手法

前章で述べた通り、新型コロナウイルスや政府の感染症対策に対する市民の態度や行動について、ここ数か月間の大きな状況の変化を加味した研究は行われていない。そこで土木学会・土木計画学研究委員会が2020年5月と10月に実施した「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」のパネルデータを用いて、自粛などの政府の感染症対策に対する支持、健康恐怖度、個人の感染症対策行動の実施度、自粛警察度、他者視線恐怖度の規定要因とその変化を探索的に検討する。

#### (1) 利用するデータセット

土木学会・土木計画学研究委員会が2020年5月に実施した「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」(回答数1000)(以下「第一回調査」と称する)に2020年10月に実施した同調査の追跡調査(継続回答数797, 新規回答数203)(以下「第二回調査」と称する)を加えたパネルデータを用いて分析を行う。なお「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」と同調査の追加調査のデータセットは、調査項目、回答結果ともにオンラインで公開されており、土木学会のウェブサイトから入手可能である。また、本研究では第一回調査のQ11とQ15のそれぞれについて、すべて同一の番号の回答を行った者と第二回調査のQ7とQ13のそれぞれについて、すべて同一の番号の回答を行った者を不正回答者として除外し、継続回答者703名の第一回調査と第二回調査の回答結果を分析対象とする。

#### (2) 回答者の個人属性

回答者の年齢層、男女比、職業構成をそれぞれ表3-1, 表3-2, 表3-3に示す。

#### (3) 分析に用いる指標

田中ら(2020)が作成した市民の態度及び行動を特徴

表 3-1 年齢層

年齢層	度数	割合(%)
20代	76	10.8
30代	99	14.1
40代	129	18.3
50代	116	16.5
60代	132	18.8
70代	148	21.1
80代	3	0.4
合計	703	100

表 3-2 男女比

年代	度数	割合(%)
男	338	48.1
女	365	51.9
合計	703	100

表 3-3 職業

職業分類	度数	割合(%)
会社員(正社員)	228	32.4
会社員(契約社員)	24	3.4
派遣社員	8	1.1
パート・アルバイト	104	14.8
公務員	28	4.0
自営業・自由業	34	4.8
会社役員・経営者	11	1.6
学生	5	0.7
年金受給者	39	5.5
専業主婦・主夫	120	17.1
無職	94	13.4
その他	8	1.1
合計	703	100

づけるための各種指標を一部改変して利用する。各指標の意味するところは、次のとおりである。なお、具体的にアンケートのどの質問文を使用しているかについては、付録補表3-1、補表3-2、補表3-3を参照されたい。

「自粛政策賛成度」：政府の自粛政策への賛成度。この指標は第二回調査でのアンケート項目の改変に伴い構成に用いるアンケート項目を改変した。

- ・ 「外出時個人対策行動実施度」：外出時に、マスク着用等 の個人的な対策行動をどれだけ徹底して取っているかを示す。
- ・ 「自粛警察度」：他者の自粛不徹底を責めたいと思う度合い。
- ・ 「主観的リスク認識」：感染・死亡リスク(確率)に関する各自の主観的・直観的な認識。
- ・ 「他者信頼度」：他者を信頼している度合い。
- ・ 「他者視線恐怖度」：自身がマスク着用などの自粛行動を徹底していないことが、他者に発覚することを恐れる度合い。
- ・ 「健康恐怖度」：新型コロナウイルスがもたらす健

康被害に対する恐怖の度合い。

- ・ 「自宅志向」：自宅にいたことが好きな度合い。
- ・ 「家族志向」：家族が好きな度合い。
- ・ 「アクティブ度」：新型コロナウイルス流行以前に、外出や娯楽活動などをどれだけ活発に行っていたかを表す。
- ・ 「政権支持度」：政権(安倍内閣)を支持していた度合い。

#### (4) 共分散構造分析

上記の指標を用いて共分散構造分析を行う、本研究では「健康恐怖度」「他者視線恐怖度」「自粛政策賛成度」「個人対策行動実施度」「自粛警察度」の各指標と年齢、性別、職業、同居者、新型コロナについて情報を得ているメディア、新型コロナに関して誰の意見を参考にするか、安倍政権を支持していたか、他者信頼度、アクティブ度、主観リスク認識、自宅志向、家族志向の間に第一回調査、第二回調査においてそれぞれ図3-1、図3-2のような因果関係が存在することを想定し、それらを検証した。

まず、個人的な基礎認知変数である「健康恐怖度」「他者視線恐怖度」を第一階層、個人的な態度・行動である「自粛政策賛成度」「個人対策行動実施度」を第二階層、社会的な態度・行動である「自粛警察度」を第三階層とした。

Nakayachiら、Sakakibara & Ozonoは「個人対策行動実施度」は「新型コロナにかからないため」や「他の人が予防行動を行っているため」などの理由で行われていることを報告しており、田中らが「自粛賛成」は「健康恐怖度」が高い者ほど高い傾向があることが報告していることより、第一階層から第二階層への因果関係を想定した。また、田中らが「自粛警察度」は「健康恐怖度」や「他者視線恐怖度」が高い者ほど高い傾向があることが報告していることに加え、個人対策を徹底している者は他人の自粛不徹底を責めることや、自粛に賛成している者は自粛政策に従わない者を責めることが考えられるため、第一階層、第二階層から第三階層の因果関係を想定した。一方で「健康恐怖度」「他者視線恐怖度」「自粛政策賛成度」「個人対策行動実施度」「自粛警察度」に影響を与える要因を探索的に検討するために、年齢、性別、職業、同居者、新型コロナについて情報を得ているメディア、新型コロナに関して誰の意見を参考にするか、安倍政権を支持していたか、他者信頼度、アクティブ度、主観リスク認識、自宅志向、家族志向を外生変数とし、それぞれの変数から「健康恐怖度」「他者視線恐怖度」「自粛政策賛成度」「個人対策行動実施度」「自粛警察度」へのそれぞれの因果関係を想定した。なお外生変数の詳細は補表3-4を参照されたい。

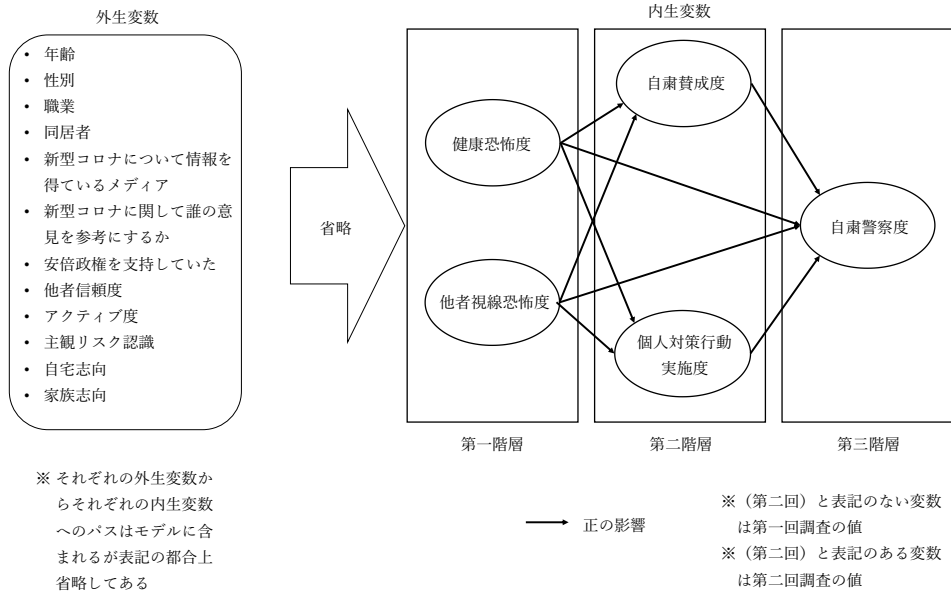


図 3-1 本研究で想定した各指標の因果関係 (第一回調査)

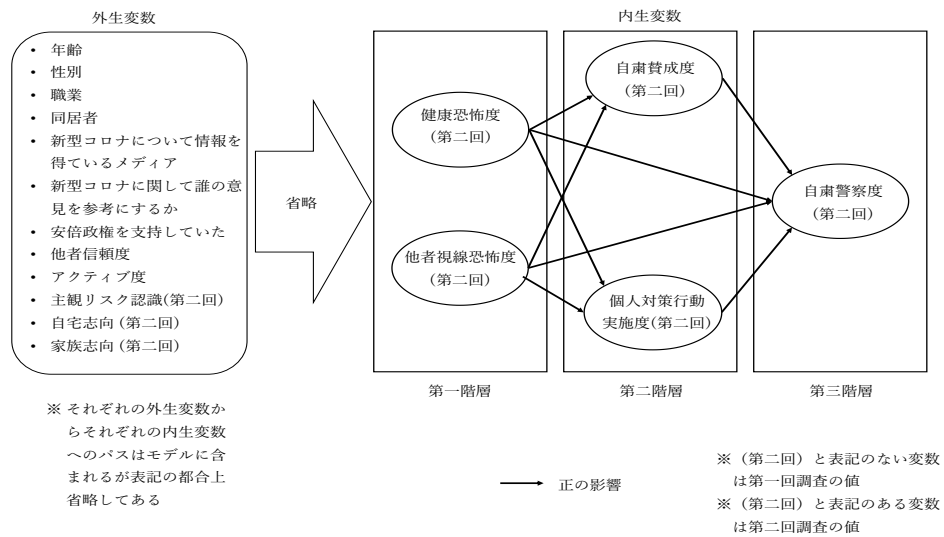


図 3-2 本研究で想定した各指標の因果関係 (第二回調査)

#### 4. 分析結果と考察

##### (1) 指標の平均値の差の検定

まず、5月から10月にかけてどのように意識が変化したのかを大まかに把握するため、第一回調査と第二回調査における各種指標に対して対応のある平均値の差の検定(有意水準: $p<0.05$ )を行ったものが表4-1である。主観リスク認識、個人対策実施度、自粛警察度、他者視線恐怖度、健康恐怖度、自粛政策賛成度は有意に減少し、自宅志向は有意に増加している。また家族志向に関して有意な差はなかった。

主観リスク認識と健康恐怖度の減少は、感染の客観的リスクが減少したことによると考えられるが、5月時点で

のリスク認識が過大評価だった可能性もある。自粛警察度と他者視線恐怖度の減少については、5月時点では緊急事態宣言が発令されていたのに対して、10月時点では発令されていなかったことに起因するとも考えられるが、例えば新型コロナに対する「慣れ」や、新型コロナのリスクに関する言論が多様化したことにより自粛の必要性が問い直された等の原因も考えられる。また、主観リスク認識や健康恐怖度と同様に5月時点で新型コロナウイルスに対して過剰反応していた可能性もある。一方で、自粛賛成度が減少していることから外出再開の風潮が高まってきていることが示唆される。自宅志向の増加については、自粛要請やリモートワークの推奨等により自宅にいる時間が長くなったことに起因するとも考えられる。

表 4-1 第一回調査と第二回調査における各種指標の平均値の差の検定

		第一回	第二回	平均値の変化量	変化量/第一回標準偏差	有意差*	t値	p値	自由度
主観リスク認識	平均	26.50	22.59	-3.9	-0.3	有意差あり	6.9	0.00	702
	標準偏差	15.61	15.20						
	$\alpha$	0.68	0.66						
個人対策実施度	平均	4.06	3.83	-0.2	-0.3	有意差あり	11.0	0.00	702
	標準偏差	0.69	0.72						
	$\alpha$	0.84	0.83						
自粛警察度	平均	3.71	2.94	-0.8	-0.6	有意差あり	16.5	0.00	702
	標準偏差	1.22	1.26						
	$\alpha$	0.79	0.87						
他者視線恐怖度	平均	3.91	2.82	-1.1	-0.8	有意差あり	17.3	0.00	702
	標準偏差	1.43	1.46						
	$\alpha$	0.79	0.91						
健康恐怖度	平均	3.77	3.51	-0.3	-0.4	有意差あり	10.7	0.00	702
	標準偏差	0.68	0.64						
	$\alpha$	0.72	0.65						
自粛政策賛成度	平均	5.35	4.93	-0.4	-0.3	有意差あり	8.3	0.00	702
	標準偏差	1.30	1.31						
	$\alpha$	0.83	0.88						
自宅志向	平均	4.46	4.64	0.2	0.1	有意差あり	-3.9	0.00	702
	標準偏差	1.33	1.40						
	$\alpha$	0.59	0.55						
家族志向	平均	4.17	4.23	0.1	0.0	有意差なし	-1.4	0.15	702
	標準偏差	1.26	1.32						
	$\alpha$	0.58	0.6						

\*有意水準:p<.05

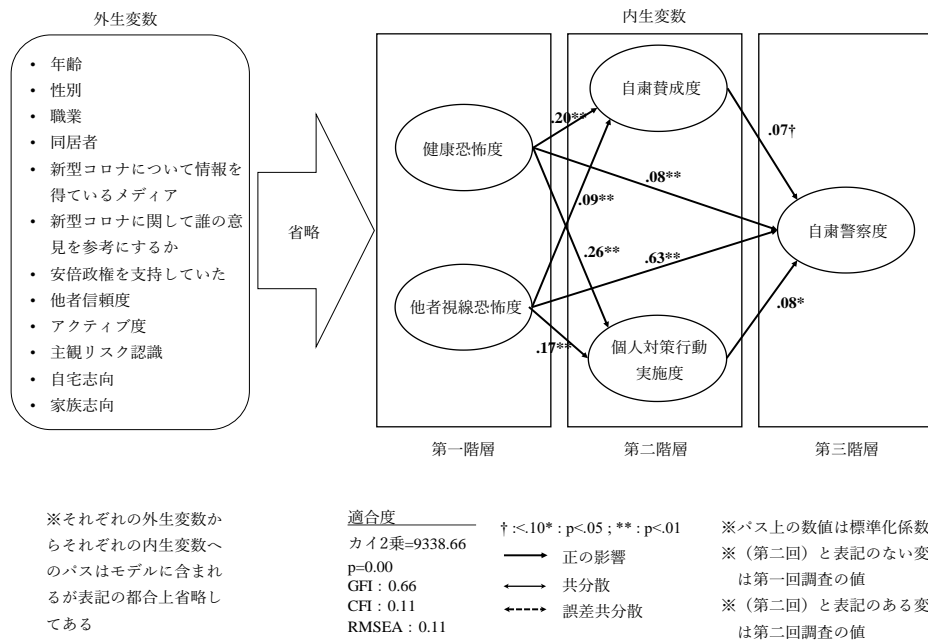


図 4-1 構造方程式の推定結果 (第一回調査)

(2) 共分散構造分析の結果

第一回調査, 第二回調査, それぞれの構造方程式の推定結果は図4-1, 図4-2のとおりである。ただし, 外生変数から内生変数への各推定値は以下に示す。また, 各構造方程式の内生変数の決定係数は表4-2のとおりである。

a)内生変数間の因果関係

構造方程式の推定の結果, 第一回は内生変数同士のすべてのパスが有意, 第二回は内生変数同士のパスのうち「健康恐怖度」から「自粛警察度」, 「他者視線恐怖度」から「自粛賛成度」以外のパスが有意であった。

このことから, 第一回の時点では新型コロナウイルス

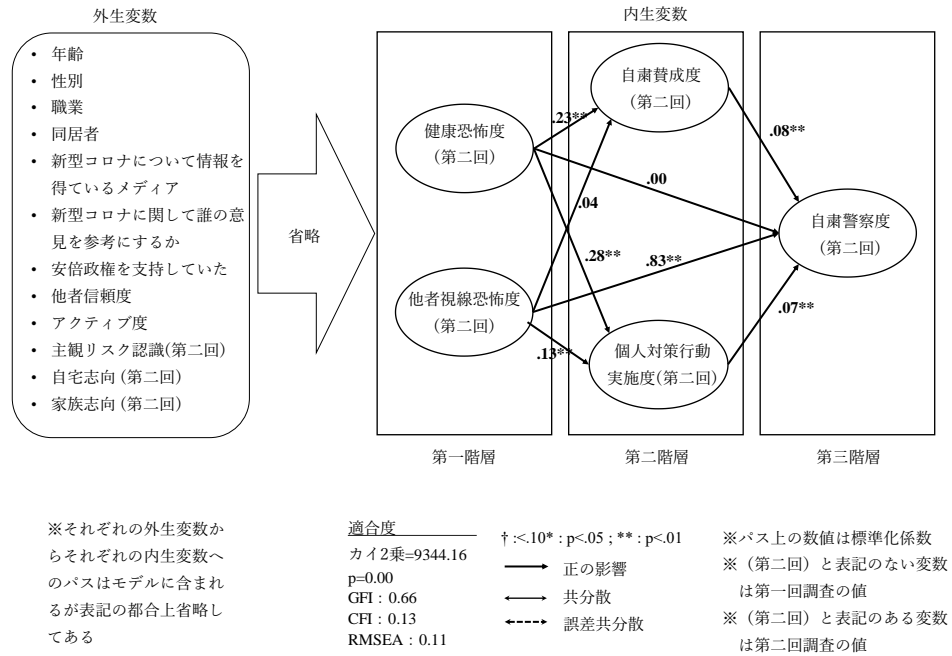


図 4-3 構造方程式の推定結果 (第二回調査)

表 4-2 内生変数の決定係数

	決定係数R <sup>2</sup> (第一回)	決定係数R <sup>2</sup> (第二回)
健康恐怖度	0.17	0.35
他者視線恐怖度	0.20	0.24
自粛政策賛成度	0.56	0.39
個人対策行動実施度	0.30	0.32
自粛警察度	0.56	0.72

が怖いために自粛警察になっている者がいたことに対して第二回の時点では新型コロナウイルスが怖いというより他者の視線が怖いために自粛警察になるものが増えたことを示唆している。

また自粛賛成の要因は他者の視線が怖いからではなく、新型コロナが怖いためであることが考えられる。

さらに、個人対策行動実施度についての推定値をみると「健康恐怖度」のほうが「他者視線恐怖度」よりも高いことが分かる。このことからマスク着用などの個人対策行動は「他の人がやっているから」というより「自分や他人を感染させないため」であることが示唆されている。

**b)内生変数に影響を与える要因**

共分散構造の結果について「健康恐怖度」「他者視線恐怖度」「自粛賛成度」「個人対策行動実施度」「自粛警察度」のそれぞれの第一回調査と第二回調査についての構造方程式モデルの推定結果は、それぞれ表4-3, 表4-4, 表4-5, 表4-6, 表4-7, 表4-8, 表4-9, 表4-10, 表

4-11, 表4-12である。

本研究では分析パターンが多いため、記述の冗長化を避けるために、ここでは、多くの内生変数に共通した影響、内生変数ごとの特徴、影響を与える要因の変化の3つに整理する形で結果の概要を取りまとめることとする。



表4-3 健康恐怖度についての構造方程式モデル推定結果 (第一回)

変数	標準化係数	t値
誤差項	0.91	37.47 **
年齢	0.02	0.61
性別	0.06	1.67 †
職業		
会社員 (正社員)	-0.13	-3.69 **
会社員 (契約社員)	-0.04	-1.22
派遣社員	0.00	0.01
パート・アルバイト	-0.06	-1.83 †
公務員	0.00	0.07
自営業・自由業	-0.09	-2.63 **
会社役員・経営者	-0.07	-2.07 *
学生	-0.04	-1.16
年金受給	-0.06	-1.61
専業主婦	0.03	0.83
無職	-0.04	-1.15
同居者		
独居	0.06	1.76 †
小学生未満の家族・親族と同居している	-0.03	-0.82
小学生の家族・親族と同居している	0.05	1.44
中学生の家族・親族と同居している	-0.01	-0.34
高校生の家族・親族と同居している	-0.01	-0.44
短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族と同居している	-0.03	-0.83
配偶者と同居している	-0.02	-0.48
自身のまたは配偶者の親と同居している	-0.05	-1.41
自身のまたは配偶者の祖父母と同居している	0.05	1.53
学生以外の親族と同居している	-0.01	-0.41
知人・友人・恋人と同居している	0.07	1.98 *
新型コロナについて情報を得ているメディア		
テレビ(ニュース)から主に情報を得る	0.08	2.27 *
テレビ (ワイドショー) から主に情報を得る	0.01	0.26
ラジオから主に情報を得る	-0.09	-2.49 *
新聞から主に情報を得る	-0.01	-0.24
Twitter・FacebookなどのSNSから主に情報を得る	0.02	0.71
ネットニュースサイトから主に情報を得る	0.07	1.91 †
その他のネットサイトから主に情報を得る	-0.05	-1.44
テレビのキャスター・司会者の意見を参考にする	0.01	0.35
新聞の記者・記事の意見を参考にする	0.01	0.21
専門家(医者や学者)の意見の意見を参考にする	0.04	1.07
新型コロナに関し誰の意見を参考にするか		
政治家(知事や議員)の意見の意見を参考にするか	0.03	0.92
コメンテーターや評論家(政治家や専門家以外の有名人)の意見の意見を参考にするか	0.03	0.81
知人・友人の意見を参考にするか	-0.06	-1.63
家族の意見を参考にするか	0.09	2.68 **
かかりつけ医の意見を参考にするか	0.08	2.25 *
インターネットの情報の意見を参考にするか	-0.06	-1.68 †
安倍政権を支持していた	-0.06	-1.87 †
他者信頼度(第一回)	-0.08	-2.28 *
アクティブ度(第一回)	-0.09	-2.62 **
主観リスク認識(第一回)	0.20	5.94 **
自宅志向(第一回)	0.07	2.12 *
家族志向(第一回)	0.03	0.92

† : <.10\* ; p<.05 ; \*\* : p<.01

表4-4 健康恐怖度についての構造方程式モデル推定結果 (第二回)

変数	標準化係数	t値
誤差項	0.81	37.47 **
年齢	0.15	4.91 **
性別	0.09	3.04 **
職業		
会社員 (正社員)	-0.21	-6.94 **
会社員 (契約社員)	-0.12	-3.95 **
派遣社員	-0.05	-1.52
パート・アルバイト	-0.17	-5.53 **
公務員	-0.08	-2.56 *
自営業・自由業	-0.12	-4.11 **
会社役員・経営者	-0.02	-0.77
学生	-0.01	-0.20
年金受給	-0.07	-2.18 *
専業主婦	-0.13	-4.42 **
無職	-0.22	-7.12 **
同居者		
独居	-0.09	-2.91 **
小学生未満の家族・親族と同居している	0.00	-0.15
小学生の家族・親族と同居している	-0.02	-0.75
中学生の家族・親族と同居している	-0.04	-1.39
高校生の家族・親族と同居している	-0.02	-0.82
短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族と同居している	-0.06	-2.02 *
配偶者と同居している	-0.05	-1.64
自身のまたは配偶者の親と同居している	0.04	1.41
自身のまたは配偶者の祖父母と同居している	0.02	0.70
学生以外の親族と同居している	-0.04	-1.16
知人・友人・恋人と同居している	0.03	1.09
新型コロナについて情報を得ているメディア		
テレビ(ニュース)から主に情報を得る	0.03	1.10
テレビ (ワイドショー) から主に情報を得る	-0.01	-0.36
ラジオから主に情報を得る	-0.03	-1.00
新聞から主に情報を得る	0.01	0.36
Twitter・FacebookなどのSNSから主に情報を得る	0.04	1.40
ネットニュースサイトから主に情報を得る	0.05	1.75 †
その他のネットサイトから主に情報を得る	-0.03	-1.04
テレビのキャスター・司会者の意見を参考にする	0.09	3.07 **
新聞の記者・記事の意見を参考にする	0.01	0.37
専門家(医者や学者)の意見の意見を参考にする	0.02	0.69
新型コロナに関し誰の意見を参考にするか		
政治家(知事や議員)の意見の意見を参考にするか	-0.07	-2.40 *
コメンテーターや評論家(政治家や専門家以外の有名人)の意見の意見を参考にするか	-0.01	-0.23
知人・友人の意見を参考にするか	0.07	2.26 *
家族の意見を参考にするか	-0.04	-1.27
かかりつけ医の意見を参考にするか	0.14	4.51 **
インターネットの情報の意見を参考にするか	-0.03	-1.13
安倍政権を支持していた	-0.03	-0.83
他者信頼度(第一回)	-0.14	-4.61 **
アクティブ度(第一回)	-0.10	-3.46 **
主観リスク認識(第一回)	0.18	6.08 **
自宅志向(第二回)	0.06	2.09 *
家族志向(第二回)	-0.03	-0.88

† : <.10\* ; p<.05 ; \*\* : p<.01

表4-6 他者視線恐怖度についての構造方程式モデル推定結果 (第二回)

変数	標準化係数	t値	
誤差項	0.87	37.47 **	
年齢	0.00	-0.06	
性別	0.07	2.03 *	
職業	会社員 (正社員)	0.18 5.39 **	
	会社員 (契約社員)	0.08 2.34 *	
	派遣社員	0.01 0.31	
	パート・アルバイト	0.06 1.92 †	
	公務員	0.13 3.83 **	
	自営業・自由業	0.09 2.60 **	
	会社役員・経営者	0.05 1.55	
	学生	0.01 0.44	
	年金受給	0.03 0.92	
	専業主婦	0.14 4.32 **	
	無職	0.17 5.22 **	
	同居者	独居	-0.07 -2.03 *
小学生未満の家族・親族と同居している		-0.03 -0.96	
小学生の家族・親族と同居している		-0.02 -0.68	
中学生の家族・親族と同居している		0.03 0.99	
高校生の家族・親族と同居している		0.02 0.46	
短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族と同居している		-0.04 -1.16	
配偶者と同居している		-0.03 -0.98	
自身のまたは配偶者の親と同居している		-0.01 -0.39	
自身のまたは配偶者の祖父母と同居している		-0.05 -1.39	
学生以外の親族と同居している		0.02 0.72	
知人・友人・恋人と同居している		-0.01 -0.30	
新型コロナについて情報を得ているメディア		テレビ(ニュース)から主に情報を得る	0.00 -0.09
	テレビ(ワイドショー)から主に情報を得る	-0.03 -0.79	
	ラジオから主に情報を得る	0.02 0.54	
	新聞から主に情報を得る	-0.04 -1.08	
	Twitter・FacebookなどのSNSから主に情報を得る	0.07 2.06 *	
	ネットニュースサイトから主に情報を得る	-0.06 -1.87 †	
	その他のネットサイトから主に情報を得る	-0.02 -0.54	
	テレビのキャスター・司会者の意見を参考にする	0.11 3.37 **	
	新聞の記者・記事の意見を参考にする	0.07 1.98 *	
	専門家(医者や学者)の意見の意見を参考にする	-0.01 -0.16	
	新型コロナに関して誰の意見を参考にするか	政治家(知事や議員)の意見の意見を参考にする	-0.06 -1.85 †
	コメンテーターや評論家(政治家や専門家以外の有名人)の意見の意見を参考にする	0.05 1.42	
知人・友人の意見を参考にする	-0.13 -3.86 **		
家族の意見を参考にする	0.02 0.75		
かかりつけ医の意見を参考にする	0.01 0.25		
インターネットの情報の意見を参考にする	0.01 0.25		
安倍政権を支持していた	0.09 2.80 **		
他者信頼度(第一回)	-0.08 -2.30 *		
アクティブ度(第一回)	0.08 2.33 *		
主観リスク認識(第一回)	0.18 5.57 **		
自宅志向(第二回)	-0.08 -2.37 *		
家族志向(第二回)	0.01 0.28		

† : <.10\* ; p<.05 ; \*\* : p<.01

表4-5 他者視線恐怖度についての構造方程式モデル推定結果 (第一回)

変数	標準化係数	t値	
誤差項	0.90	37.47 **	
年齢	0.00	0.04	
性別	-0.19	5.60 **	
職業	会社員 (正社員)	-0.02 -0.72	
	会社員 (契約社員)	-0.01 -0.19	
	派遣社員	0.00 0.09	
	パート・アルバイト	-0.14 -4.03 **	
	公務員	0.05 1.34	
	自営業・自由業	-0.05 -1.62	
	会社役員・経営者	-0.01 -0.40	
	学生	0.05 1.50	
	年金受給	-0.04 -1.06	
	専業主婦	-0.09 -2.53 *	
	無職	-0.06 -1.87 †	
	同居者	独居	0.03 0.99
小学生未満の家族・親族と同居している		-0.01 -0.19	
小学生の家族・親族と同居している		-0.01 -0.37	
中学生の家族・親族と同居している		-0.01 -0.44	
高校生の家族・親族と同居している		0.00 0.03	
短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族と同居している		-0.05 -1.33	
配偶者と同居している		0.08 2.33 *	
自身のまたは配偶者の親と同居している		0.03 0.91	
自身のまたは配偶者の祖父母と同居している		0.05 1.34	
学生以外の親族と同居している		0.01 0.17	
知人・友人・恋人と同居している		0.01 0.21	
新型コロナについて情報を得ているメディア		テレビ(ニュース)から主に情報を得る	0.00 0.08
	テレビ(ワイドショー)から主に情報を得る	0.03 0.79	
	ラジオから主に情報を得る	-0.04 -1.21	
	新聞から主に情報を得る	-0.05 -1.40	
	Twitter・FacebookなどのSNSから主に情報を得る	-0.02 -0.58	
	ネットニュースサイトから主に情報を得る	0.02 0.54	
	その他のネットサイトから主に情報を得る	-0.06 -1.72 †	
	テレビのキャスター・司会者の意見を参考にする	0.22 6.52 **	
	新聞の記者・記事の意見を参考にする	0.07 2.16 *	
	専門家(医者や学者)の意見の意見を参考にする	-0.04 -1.04	
	新型コロナに関して誰の意見を参考にするか	政治家(知事や議員)の意見の意見を参考にする	-0.05 -1.56
	コメンテーターや評論家(政治家や専門家以外の有名人)の意見の意見を参考にする	0.02 0.45	
知人・友人の意見を参考にする	-0.08 -2.47 *		
家族の意見を参考にする	-0.01 -0.28		
かかりつけ医の意見を参考にする	0.08 2.27 *		
インターネットの情報の意見を参考にする	0.06 1.82 †		
安倍政権を支持していた	0.07 2.11 *		
他者信頼度(第一回)	-0.01 -0.35		
アクティブ度(第一回)	0.01 0.27		
主観リスク認識(第一回)	0.13 3.84 **		
自宅志向(第一回)	0.01 0.29		
家族志向(第一回)	-0.06 -1.66 †		

† : <.10\* ; p<.05 ; \*\* : p<.01

表4-8 自粛賛成度度についての構造方程式モデル推定結果 (第二回)

変数	標準化係数	t値
健康恐怖度 (第二回)	0.23	6.21 **
他者視線恐怖度 (第二回)	0.04	1.24
誤差項	0.78	37.47 **
年齢	0.04	1.20
性別	-0.01	-0.28
職業		
会社員 (正社員)	0.30	9.76 **
会社員 (契約社員)	0.13	4.37 **
派遣社員	0.06	2.12 *
パート・アルバイト	0.26	8.47 **
公務員	0.08	2.64 **
自営業・自由業	0.13	4.47 **
会社役員・経営者	0.09	3.06 **
学生	0.04	1.26
年金受給	0.12	4.01 **
専業主婦	0.22	7.39 **
無職	0.22	7.16 **
同居者		
独居	0.02	0.56
小学生未満の家族・親族と同居している	-0.01	-0.27
小学生の家族・親族と同居している	0.07	2.26 *
中学生の家族・親族と同居している	-0.05	-1.54
高校生の家族・親族と同居している	-0.02	-0.60
短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族と同居している	0.03	1.00
配偶者と同居している	-0.03	-0.89
自身のまたは配偶者の親と同居している	0.01	0.20
自身のまたは配偶者の祖父母と同居している	-0.03	-0.87
学生以外の親族と同居している	0.01	0.49
知人・友人・恋人と同居している	0.01	0.18
テレビ(ニュース)から主に情報を得る	0.02	0.59
テレビ(ワイドショー)から主に情報を得る	0.01	0.50
ラジオから主に情報を得る	-0.10	-3.25 **
新聞から主に情報を得る	0.04	1.42
メディア Twitter・FacebookなどのSNSから主に情報を得る	0.02	0.55
ネットニュースサイトから主に情報を得る	0.06	1.94 †
その他のネットサイトから主に情報を得る	-0.06	-2.19 *
テレビのキャスター・司会者の意見を参考にする	-0.05	-1.54
新聞の記者・記事の意見を参考にする	-0.01	-0.44
専門家(医者や学者)の意見の意見を参考にする	0.12	4.12 **
新型コロナに関して誰の意見を参考にするか		
政治家(知事や議員)の意見の意見を参考にする	0.06	2.13 *
コメンテーターや評論家(政治家や専門家以外の有名人)の意見の意見を参考にする	-0.03	-0.93
知人・友人の意見を参考にする	-0.04	-1.21
家族の意見を参考にする	0.06	2.18 *
かかりつけ医の意見を参考にする	-0.01	-0.37
インターネットの情報の意見を参考にする	0.05	1.71 †
安倍政権を支持していた	0.11	3.77 **
他者信頼度 (第一回)	0.00	0.08
アクティブ度 (第一回)	-0.01	-0.38
主観リスク認識 (第一回)	0.09	3.02 **
自宅志向 (第二回)	0.09	2.95 **
家族志向 (第二回)	-0.10	-3.27 **

† : <.10\* : p<.05 ; \*\* : p<.01

表4-7 自粛賛成度についての構造方程式モデル推定結果 (第一回)

変数	標準化係数	t値
健康恐怖度 (第一回)	0.20	7.16 **
他者視線恐怖度 (第一回)	0.09	3.16 **
誤差項	0.66	37.47 **
年齢	0.06	2.25 *
性別	-0.04	-1.53
職業		
会社員 (正社員)	-0.31	-12.38 **
会社員 (契約社員)	-0.22	-8.60 **
派遣社員	-0.06	-2.39 *
パート・アルバイト	-0.22	-8.50 **
公務員	-0.16	-6.53 **
自営業・自由業	-0.10	-3.97 **
会社役員・経営者	-0.08	-3.17 **
学生	-0.04	-1.50
年金受給	-0.16	-6.19 **
専業主婦	-0.22	-8.57 **
無職	-0.26	-10.27 **
同居者		
独居	0.06	2.56 *
小学生未満の家族・親族と同居している	0.03	1.26
小学生の家族・親族と同居している	-0.02	-0.80
中学生の家族・親族と同居している	0.02	0.86
高校生の家族・親族と同居している	-0.06	-2.43 *
短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族と同居している	0.03	1.20
配偶者と同居している	0.07	2.96 **
自身のまたは配偶者の親と同居している	0.04	1.79 †
自身のまたは配偶者の祖父母と同居している	0.02	0.76
学生以外の親族と同居している	-0.03	-1.11
知人・友人・恋人と同居している	-0.01	-0.44
テレビ(ニュース)から主に情報を得る	0.01	0.33
テレビ(ワイドショー)から主に情報を得る	0.02	0.80
ラジオから主に情報を得る	-0.04	-1.63
新聞から主に情報を得る	0.02	0.80
メディア Twitter・FacebookなどのSNSから主に情報を得る	0.02	0.81
ネットニュースサイトから主に情報を得る	0.01	0.47
その他のネットサイトから主に情報を得る	-0.03	-1.22
テレビのキャスター・司会者の意見を参考にする	-0.01	-0.47
新聞の記者・記事の意見を参考にする	0.00	0.15
専門家(医者や学者)の意見の意見を参考にする	0.09	3.53 **
新型コロナに関して誰の意見を参考にするか		
政治家(知事や議員)の意見の意見を参考にする	0.01	0.30
コメンテーターや評論家(政治家や専門家以外の有名人)の意見の意見を参考にする	-0.06	-2.50 *
知人・友人の意見を参考にする	0.03	1.04
家族の意見を参考にする	0.04	1.42
かかりつけ医の意見を参考にする	-0.04	-1.40
インターネットの情報の意見を参考にする	0.04	1.57
安倍政権を支持していた	0.14	5.45 **
他者信頼度 (第一回)	0.03	1.38
アクティブ度 (第一回)	0.06	2.45 *
主観リスク認識 (第一回)	0.06	2.40 *
自宅志向 (第一回)	0.05	2.14 *
家族志向 (第一回)	-0.03	-1.15

† : <.10\* : p<.05 ; \*\* : p<.01

表4-10 個人対策行動実施度についての構造方程式モデル推定結果 (第二回)

変数	標準化係数	t値	
健康恐怖度 (第二回)	0.28	7.35 **	
他者視線恐怖度 (第二回)	0.13	3.51 **	
誤差項	0.83	37.47 **	
年齢	0.10	3.27 **	
性別	0.14	4.32 **	
職業	会社員 (正社員)	0.19	5.69 **
	会社員 (契約社員)	0.10	3.21 **
	派遣社員	0.04	1.23
	パート・アルバイト	0.17	5.44 **
	公務員	0.08	2.52 *
	自営業・自由業	0.10	3.29 **
	会社役員・経営者	0.06	1.93 †
	学生	0.02	0.65
	年金受給	0.11	3.39 **
	専業主婦	0.20	6.39 **
無職	0.21	6.24 **	
同居者	独居	0.00	0.09
	小学生未満の家族・親族と同居している	-0.02	-0.62
	小学生の家族・親族と同居している	0.02	0.59
	中学生の家族・親族と同居している	0.02	0.66
	高校生の家族・親族と同居している	0.07	2.19 *
	短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族と同居している	-0.02	-0.57
	配偶者と同居している	0.01	0.39
	自身のまたは配偶者の親と同居している	-0.04	-1.24
	自身のまたは配偶者の祖父母と同居している	0.01	0.43
	学生以外の親族と同居している	-0.02	-0.77
	知人・友人・恋人と同居している	0.01	0.37
	テレビ(ニュース)から主に情報を得る	-0.06	-1.88 †
	テレビ(ワイドショー)から主に情報を得る	0.02	0.61
ラジオから主に情報を得る	0.00	-0.13	
新聞から主に情報を得る	-0.01	-0.35	
メディア	Twitter・FacebookなどのSNSから主に情報を得る	0.07	2.37 *
	ネットニュースサイトから主に情報を得る	0.09	2.99 **
	その他のネットサイトから主に情報を得る	0.02	0.79
	テレビのキャスター・司会者の意見を参考にする	-0.03	-0.89
	新聞の記者・記事の意見を参考にする	0.04	1.13
	専門家(医者や学者)の意見の意見を参考にする	0.06	1.77 †
新型コロナに関して誰の意見を参考にするか	政治家(知事や議員)の意見の意見を参考にする	0.03	1.07
	コメンテーターや評論家(政治家や専門家以外の有名人)の意見の意見を参考にする	-0.01	-0.37
	知人・友人の意見を参考にする	-0.05	-1.43
	家族の意見を参考にする	0.04	1.34
	かかりつけ医の意見を参考にする	0.04	1.31
	インターネットの情報の意見を参考にする	-0.06	-2.06 *
安倍政権を支持していた	-0.01	-0.26	
他者信頼度 (第一回)	0.03	0.80	
アクティブ度 (第一回)	0.03	0.94	
主観リスク認識 (第一回)	0.05	1.51	
自宅志向 (第二回)	-0.01	-0.29	
家族志向 (第二回)	0.03	0.83	

† : <.10\* : p<.05 ; \*\* : p<.01

表4-9 個人対策行動実施度についての構造方程式モデル推定結果 (第一回)

変数	標準化係数	t値	
健康恐怖度 (第一回)	0.26	7.49 **	
他者視線恐怖度 (第一回)	0.17	4.78 **	
誤差項	0.83	37.47 **	
年齢	0.09	2.75 **	
性別	0.15	4.78 **	
職業	会社員 (正社員)	-0.12	-3.76 **
	会社員 (契約社員)	-0.03	-0.81
	派遣社員	-0.04	-1.25
	パート・アルバイト	-0.06	-1.97 *
	公務員	-0.10	-3.07 **
	自営業・自由業	-0.04	-1.29
	会社役員・経営者	-0.01	-0.16
	学生	-0.05	-1.65 †
	年金受給	-0.06	-2.00 *
	専業主婦	-0.09	-2.84 **
無職	-0.08	-2.49 *	
同居者	独居	0.02	0.75
	小学生未満の家族・親族と同居している	0.01	0.45
	小学生の家族・親族と同居している	0.01	0.17
	中学生の家族・親族と同居している	-0.05	-1.61
	高校生の家族・親族と同居している	0.07	2.20 *
	短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族と同居している	-0.04	-1.41
	配偶者と同居している	0.03	0.96
	自身のまたは配偶者の親と同居している	-0.01	-0.21
	自身のまたは配偶者の祖父母と同居している	0.02	0.60
	学生以外の親族と同居している	-0.06	-1.79 †
	知人・友人・恋人と同居している	0.00	0.13
	テレビ(ニュース)から主に情報を得る	-0.05	-1.65 †
	テレビ(ワイドショー)から主に情報を得る	0.04	1.30
ラジオから主に情報を得る	0.00	-0.03	
新聞から主に情報を得る	-0.01	-0.19	
メディア	Twitter・FacebookなどのSNSから主に情報を得る	0.08	2.60 **
	ネットニュースサイトから主に情報を得る	0.04	1.39
	その他のネットサイトから主に情報を得る	0.01	0.22
	テレビのキャスター・司会者の意見を参考にする	0.01	0.20
	新聞の記者・記事の意見を参考にする	0.10	3.02 **
	専門家(医者や学者)の意見の意見を参考にする	0.07	2.28 *
新型コロナに関して誰の意見を参考にするか	政治家(知事や議員)の意見の意見を参考にする	0.00	0.13
	コメンテーターや評論家(政治家や専門家以外の有名人)の意見の意見を参考にする	-0.07	-2.07 *
	知人・友人の意見を参考にする	-0.01	-0.34
	家族の意見を参考にする	0.05	1.62
	かかりつけ医の意見を参考にする	-0.04	-1.38
	インターネットの情報の意見を参考にする	0.00	-0.05
安倍政権を支持していた	0.05	1.70 †	
他者信頼度 (第一回)	0.02	0.48	
アクティブ度 (第一回)	0.06	2.01 *	
主観リスク認識 (第一回)	0.02	0.58	
自宅志向 (第一回)	0.04	1.19	
家族志向 (第一回)	0.00	0.07	

† : <.10\* : p<.05 ; \*\* : p<.01



表4-11 自粛警察度についての構造方程式モデル推定結果 (第一回)

変数	標準化係数	t値
健康恐怖度 (第一回)	0.08	2.62 **
他者視線恐怖度 (第一回)	0.63	21.92 **
自粛政策賛成度 (第一回)	0.07	1.76 †
個人対策行動実施度 (第一回)	0.08	2.51 *
誤差項	0.66	37.47 **
年齢	0.06	2.21 *
性別	-0.12	-4.66 **
職業		
会社員 (正社員)	0.11	4.08 **
会社員 (契約社員)	0.05	1.85 †
派遣社員	-0.05	-1.91 †
パート・アルバイト	0.08	3.05 **
公務員	-0.01	-0.56
自営業・自由業	0.01	0.45
会社役員・経営者	0.01	0.48
学生	0.05	1.80 †
年金受給	0.04	1.47
専業主婦	0.14	5.21 **
無職	0.07	2.61 **
同居者		
独居	0.00	0.19
小学生未満の家族・親族と同居している	-0.02	-0.95
小学生の家族・親族と同居している	0.02	0.61
中学生の家族・親族と同居している	-0.02	-0.76
高校生の家族・親族と同居している	0.02	0.75
短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族と同居している	-0.04	-1.40
配偶者と同居している	-0.04	-1.67 †
自身のまたは配偶者の親と同居している	0.05	1.94 †
自身のまたは配偶者の祖父母と同居している	-0.03	-1.10
学生以外の親族と同居している	-0.01	-0.42
知人・友人・恋人と同居している	-0.01	-0.32
テレビ(ニュース)から主に情報を得る	0.02	0.61
テレビ(ワイドショー)から主に情報を得る	0.05	2.01 *
ラジオから主に情報を得る	-0.01	-0.55
新聞から主に情報を得る	-0.05	-1.91 †
メディア		
Twitter・FacebookなどのSNSから主に情報を得る	-0.03	-1.26
ネットニュースサイトから主に情報を得る	-0.06	-2.23 *
その他のネットサイトから主に情報を得る	-0.04	-1.55
テレビのキャスター・司会者の意見を参考にする	0.03	1.31
新聞の記者・記事の意見を参考にする	0.05	1.87 †
専門家(医者や学者)の意見の意見を参考にする	-0.01	-0.22
新型コロナに関して誰の意見を参考にするか		
政治家(知事や議員)の意見の意見を参考にする	-0.03	-1.17
コメンテーターや評論家(政治家や専門家以外の有名人)の意見の意見を参考にする	-0.01	-0.42
知人・友人の意見を参考にする	-0.04	-1.72 †
家族の意見を参考にする	0.04	1.68 †
かかりつけ医の意見を参考にする	0.02	0.83
インターネットの情報の意見を参考にする	0.05	2.01 *
安倍政権を支持していた	0.06	2.25 *
他者信頼度 (第一回)	-0.01	-0.53
アクティブ度 (第一回)	-0.02	-0.65
主観リスク認識 (第一回)	0.04	1.69 †
自宅志向 (第一回)	-0.08	-2.98 **
家族志向 (第一回)	-0.05	-2.06 *

† : <.10\* : p<.05 ; \*\* : p<.01

表4-12 自粛警察度についての構造方程式モデル推定結果 (第二回)

変数	標準化係数	t値
健康恐怖度 (第二回)	0.00	0.16
他者視線恐怖度 (第二回)	0.83	35.87 **
自粛政策賛成度 (第二回)	0.08	3.14 **
個人対策行動実施度 (第二回)	0.07	2.93 **
誤差項	0.53	37.47 **
年齢	0.12	5.72 **
性別	-0.06	-3.15 **
職業		
会社員 (正社員)	-0.12	-5.38 **
会社員 (契約社員)	-0.05	-2.45 *
派遣社員	-0.06	-2.92 **
パート・アルバイト	-0.06	-2.71 **
公務員	-0.04	-2.07 *
自営業・自由業	-0.05	-2.30 *
会社役員・経営者	-0.05	-2.24 *
学生	0.03	1.62
年金受給	-0.07	-3.67 **
専業主婦	-0.04	-1.91 †
無職	-0.10	-4.58 **
同居者		
独居	-0.04	-2.07 *
小学生未満の家族・親族と同居している	0.02	1.21
小学生の家族・親族と同居している	0.03	1.26
中学生の家族・親族と同居している	-0.06	-2.92 **
高校生の家族・親族と同居している	0.03	1.74 †
短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族と同居している	0.03	1.63
配偶者と同居している	-0.06	-3.12 **
自身のまたは配偶者の親と同居している	0.01	0.70
自身のまたは配偶者の祖父母と同居している	-0.01	-0.72
学生以外の親族と同居している	-0.03	-1.73 †
知人・友人・恋人と同居している	0.01	0.49
テレビ(ニュース)から主に情報を得る	-0.01	-0.44
テレビ(ワイドショー)から主に情報を得る	-0.01	-0.32
ラジオから主に情報を得る	-0.01	-0.66
新聞から主に情報を得る	-0.01	-0.58
メディア		
Twitter・FacebookなどのSNSから主に情報を得る	-0.02	-1.16
ネットニュースサイトから主に情報を得る	-0.02	-0.82
その他のネットサイトから主に情報を得る	0.00	0.09
テレビのキャスター・司会者の意見を参考にする	0.05	2.52 *
新聞の記者・記事の意見を参考にする	-0.01	-0.74
専門家(医者や学者)の意見の意見を参考にする	-0.01	-0.34
新型コロナに関して誰の意見を参考にするか		
政治家(知事や議員)の意見の意見を参考にする	-0.03	-1.27
コメンテーターや評論家(政治家や専門家以外の有名人)の意見の意見を参考にする	0.00	0.00
知人・友人の意見を参考にする	-0.03	-1.38
家族の意見を参考にする	0.04	2.09 *
かかりつけ医の意見を参考にする	0.02	0.94
インターネットの情報の意見を参考にする	0.01	0.33
安倍政権を支持していた	0.02	0.80
他者信頼度 (第一回)	-0.04	-1.74 †
アクティブ度 (第一回)	-0.01	-0.27
主観リスク認識 (第一回)	-0.05	-2.38 *
自宅志向 (第二回)	0.03	1.51
家族志向 (第二回)	-0.06	-3.07 **

† : <.10\* : p<.05 ; \*\* : p<.01

〈多くの内生変数に共通した影響〉

- ・ 女性であること

女性ほど、健康恐怖度が高く、他者視線恐怖度が高く、個人対策行動実施度が高い傾向がある。

- ・ 他者信頼度が高いこと

他者信頼度が高いほど、健康恐怖度が低く、他者視線恐怖度が低い傾向がある。

- ・ 主観リスクが高いこと

主観リスクが高いほど、健康恐怖度が高く、他者視線恐

怖度が高く、自粛賛成度が高い傾向がある。

- ・ 自宅志向が高いこと

自宅志向が高いほど、健康恐怖度が低く、他者視線恐怖度が高く、自粛賛成度が高い傾向がある。

- ・ 他者視線恐怖度が高いこと

他者視線恐怖度が高いほど個人対策行動実施度が高く、自粛賛成度が高く、自粛警察度が高い傾向がある。

- ・ テレビのキャスターを参考にする

テレビのキャスターを参考にするほど、健康恐怖度が高

く、他者視線恐怖度が高く、自粛警察度が高い傾向がある。

- ・ ラジオから情報を得ること  
ラジオから情報を得るほど健康恐怖度が低く、自粛警察度が低い傾向がある。
- ・ 安倍政権を支持していたこと  
安倍政権を支持していた者ほど、他者視線恐怖度が高く、自粛賛成度が高い傾向がある。

〈健康恐怖度に特に影響を及ぼす要因〉

健康恐怖度に大きな正の影響を与える要因

- ・ 主観リスクが高いこと
- 健康恐怖度に大きな負の影響を与える要因
- ・ 会社員（正社員）であること
  - ・ 無職であること

〈他者視線恐怖度に大きく影響を与えた要因〉

他者視線恐怖度に大きな正の影響を与える要因

- ・ 女性であること
- ・ テレビのキャスターを参考にする

〈自粛賛成度に大きく影響を与えた要因〉

自粛賛成度に大きな正の影響を与える要因

- ・ 健康恐怖度が高いこと
- ・ 安倍世間を支持していたこと

〈個人対策行動実施度に大きく影響を与えた要因〉

個人対策行動実施度に大きな正の影響を与える要因

- ・ 年齢が高いこと
- ・ 女性であること
- ・ 健康恐怖度が高いこと
- ・ 他者視線恐怖度が高いこと

ただし、健康恐怖度の与える影響が一番大きく、他者視線恐怖度の与える影響が二番目に大きい。

〈自粛警察度に大きく影響を与えた要因〉

自粛警察度に大きな正の影響を与える要因

- ・ 他者視線恐怖度が高いこと

〈影響を与える要因の変化〉

- ・ 第一回ではテレビのニュースを見る者は新型コロナを恐れ、ラジオから情報を得る者ほど新型コロナを恐れない傾向があったが、第二回では有意でなかった。
- ・ 年齢が高いことは、第一回において健康恐怖度に有意な正の影響を与えているが、第二回では有意ではなかった。
- ・ テレビのキャスターを参考にする者ほど、第二回

では新型コロナを恐れる傾向がみられるようになった

- ・ 会社員（正社員）、公務員、自営業・自由業の者は、第二回では他者視線恐怖度が高い傾向がみられるようになった。
- ・ 第一回では主婦や無職の者は、他者視線恐怖度が低い傾向があったが第二回では逆に高い傾向がある。
- ・ Twitter・FacebookなどのSNSから情報を得る者は第二回では他者視線恐怖度が高い傾向がみられるようになった。
- ・ 他者信頼度や自宅志向が高い者は、第二回では他者視線恐怖度が低い傾向がみられるようになった。
- ・ インターネットの情報を参考にする者は、第二回では個人対策を徹底する傾向がみられるようになった。
- ・ アクティブ度が高い者は第一回では個人対策行動実施度に正の有意な影響を与えている、第二回では有意ではなかった。

### (3) 分析の考察

以下、本研究の分析から得られた主要な知見と考察をまとめる。

- ・ 第二回調査（10月実施）では第一回調査（5月実施）と比べて、主観リスク認識、健康恐怖度、自粛警察度、他者視線恐怖度、健康恐怖度、個人対策行動実施度が、それぞれ有意に減少した。これは5月時点での新型コロナウイルスに対する過剰な反応が和らいできたと考えられる。
- ・ 自粛政策賛成度は健康恐怖度が高い者、専門家（医者、学者）の意見を参考にする者、安倍政権を支持していた者、インターネットやネットニュースサイトから主に情報を得る者ほど高い傾向があり、ラジオから情報を得る者は自粛に反対する傾向がある。
- ・ 個人対策実施度は年齢が高いほど、女性ほど積極的に行なっている。女性のほうが感染症対策を徹底することはLongら、Zhongら、田中ら、Jorgensenらの報告と一致している。また今回の分析では、個人対策実施度の規定要因の中には、健康恐怖度と他者視線恐怖度の両方が含まれるが、健康恐怖度の方が支配的であった（第二回の構造方程式モデルで標準化係数はそれぞれ0.28と0.13）。国内においてマスクの着用を要因として影響力が強いのは「自分や他人の感染を防ぐため」と「周りの人が着用しているため」のどちらかであるのかという議論があるが、今回の結果は、「周りが着用しているから」というよりも「自分や他人の感染を防ぐため」という理由でマスクをつけているということをサポートしている。

- ・ 自粛警察度に最も影響を与える要因は他者視線恐怖度であった。自粛警察度と他者視線恐怖度は「自粛をしなければならない」という考えから生まれる、他人の行動に対する感情と自分の行動に対する感情であると捉えると、これらは因果関係でなく根源的な考えの一致から生じる表面的な相関関係であると考えられる。しかし、他者からの同調圧力によって他者視線恐怖度が上がったために、その同調圧力に加担するような形で自粛を他人にも強要するようになったという可能性も考えられる。また、個人対策実施度の高い者は自粛警察になりやすいことも分かった。SakakibaraとOzonoが指摘しているように、他人の感染症対策の評価は自分の感染症対策の評価よりも厳しくなる傾向があるため自分が感染症対策を徹底している場合には評価のギャップが激しくなり、そのギャップは他人を非難する動機になり得ると考えられる。
- ・ 第一回の調査の時点ではテレビ（ニュース）から情報を得る者は健康恐怖度が高く、ラジオから情報を得る者は健康恐怖度が低い傾向があった。これは2020年5月時点でのテレビが過度に不安を煽っていたことを示唆している。第二回の時点ではテレビ（ニュース）から情報を得る者の健康恐怖度が高い傾向も、ラジオから情報を得る者の健康恐怖度が低い傾向はみられなかった。5月から10月にかけて全体の健康恐怖度が低下していることから、過度に新型コロナを恐れていた人々の恐怖心が薄れ、情報を得るメディアによる健康恐怖度の差が縮まったのであると考えられる。しかし、第二回においてテレビのワイドショーを参考にする者は健康恐怖度が高いことがわかる。このことから、未だに、テレビによる不安の煽りにより国民の健康恐怖度が上がっていることが示唆されている。
- ・ テレビのキャスターの意見を参考にする者は他者視線恐怖度が高い傾向がある。これはテレビが市民の恐怖心を執拗に煽り立てていることを示唆しており、他者視線恐怖度の上昇による自粛警察度の上昇や、健康恐怖度の過度な上昇による過剰自粛も生じている可能性がある。日本人では新聞やテレビなどのマスメディアの報道に自粛などの行動に影響を受けたと答えている者が68%であると報告があるように、マスメディアの影響力は非常に大きいため、健全な市民活動のために節度のある報道が求められる。
- ・ メディアに関する知見をまとめると、テレビから情報を得る、テレビを参考にする者は健康恐怖度、他者視線恐怖度、自粛警察度が高い傾向があり、ラジオから情報を得る者は、健康恐怖度、自粛賛成度が低い傾向があり、SNS、ネットニュースから情報を得

る者は個人対策行動実施度が高い傾向にある。

#### 4. 結論

以上の分析を踏まえて今後のパンデミック時における政策立案に際して重要な知見は以下の2つである

##### a) 健康恐怖度、他者視線恐怖度、自粛賛成度、個人対策行動実施度、自粛警察度の低下

2020年5月に比べて2020年10月における健康恐怖度、他者視線恐怖度、自粛賛成度、個人対策行動実施度、自粛警察度は有意に減少していたことから、市民の新型コロナに対する反応は和らいできているといえる。自粛賛成度や自粛警察度は健康恐怖度や主観リスクなどに正の影響を受けていることから、健康恐怖度や主観リスクが「慣れ」や「新型コロナウイルスについての適切な知識の入手」によって低下したことにより自粛賛成度や自粛警察度が低下したことも考えられる。

##### b) メディアによる影響

本研究では、メディアが人々の行動や態度に与える様々な影響が明らかになった。5月の時点ではテレビから情報を得る者は健康恐怖度が高く、ラジオから情報を得る者は健康恐怖度が低い傾向があったことから、当初は情報を得るメディアの違いが健康恐怖度の高低に影響を与えていたことが示唆されている。また10月時点では情報を得るメディアによる健康恐怖度の影響は有意ではなかった。一方で10月時点でテレビのキャスター・司会者を参考にする者は健康恐怖度が高い傾向にあった。また、テレビのキャスター・司会者を参考にする者は他者視線恐怖度、自粛警察度が高い傾向があり、テレビで新型コロナの恐怖心を煽り立てていることが原因である可能性がある。過剰な対策行動による経済的・社会的な損失や自粛警察による社会問題を避けるためにも、テレビなどのメディアの報道は、過度に不安をあおらず、適切な情報提供に努めることが求められる。さらに、政府はテレビなどのメディアを通じて適切な個人対策方法や、客観的なリスクを伝えることによって、バランスの取れた世論や健全な世の中の「空気」を醸成することにつながると思われる。

**謝辞：**本論文を結ぶにあたり、多くのご指導ご支援を賜りました方々に深く感謝申し上げます。

指導教官である京都大学大学院工学研究科藤井聡教授には、分析手法から論文執筆の細部に至るまで様々なご指導を賜りました。特に、分析結果の解釈をする際には様々な観点からアイデアをご教示いただきましたこと深く感謝申し上げます。

同川端祐一郎助教には、データのまとめ方や分析の手法

を一から教えていただき、論文執筆の際も丁寧なご指導を賜りました。日々の打ち合わせでは、分析の方向性や解釈について様々なご意見、ご指導を賜りましたこと心よりお礼申し上げます。

同山田忠史教授、同Jan-DrickSchöcker准教授、同中尾聡史助教には、合同ゼミの際貴重なご意見、ご指導賜りましたこと深く感謝申し上げます。

東京理科大学理工学部土木工学科田中皓介助教には、アンケートの結果を即座に共有していただきましたこと深くお礼申し上げます。

秘書の市橋さんには、日頃様々な面でご支援いただきましたこと深く感謝申し上げます。

同研究室の先輩方には、研究に関する数多くの助言やご指導、ご協力を頂きました。特に田中さんには分析データの引継ぎを丁寧にいただき、分析にも貴重なご意見をくださいましたこと感謝申し上げます。

同輩の加藤君、日下部さん、畑君とは、同期として日々、切磋琢磨しあいながらも、苦しいときには協力し合い心の支えとなってくれました。感謝しております。

最後に、筆者のことを常に気にかけて、経済面・精神面と

もに支えてくださった両親には、深い感謝と敬意を示し、心よりお礼申し上げます。

付録

補表 3-1 合成変数の構成要素①

指標名	問番号	質問文	選択肢	合成方法
自粛警察度	Q19.1 (Q13.1)	あなたは、「仕事で外出」している人を見ると、「だめじゃないか!」と思いますか?		
	Q19.2 (Q13.2)	あなたは、「プライベートで人と会っている人」を見ると、「だめじゃないか!」と思いますか?	1. 強く思う ↑	回答を逆転した後平均して合成
	Q19.3 (Q13.3)	あなたは、「プライベートでおでかけしている人」を見ると、「だめじゃないか!」と思いますか?	4. どちらともいえない ↓	
	Q19.7 (Q13.7)	コロナに感染している人は、責められるべきだと思いますか?	7. 全く思うわない	
	Q19.8 (Q13.8)	自粛要請に従わないお店は責められるべきだと思いますか?		
Q19.4 (Q13.4)	あなたは、「仕事で外出」していることが皆に知れ渡ると、どれくらい「マズい...」と思いますか?	1. 強く思う ↑		
他者視線恐怖度	Q19.5 (Q13.5)	あなたは、「プライベートで人と会っている」ことが皆に知れ渡ると、どれくらい「マズい...」と思いますか?	4. どちらともいえない ↓	回答を逆転した後平均して合成
	Q19.6 (Q13.6)	あなたは、「プライベートでおでかけしている」ことが皆に知れ渡ると、どれくらい「マズい...」と思いますか?	7. 全く思うわない	

ただし\*がついている設問は逆転項目である

問番号における () 外は第一回調査の質問番号を、 () 内は第二回調査の質問番号を表す  
問番号における (-) は第二回調査にその質問項目が含まれなかったことを表す



補表 3-2 合成変数の構成要素②

指標名	問番号	質問文	選択肢	合成方法
田中ら(2020)で 用いた 自粛政策賛成度	Q19.9 (Q13.9)	政府は、4月7日に東京、大阪、福岡などで「緊急事態宣言」を発令しました。これは正しい判断だったと思いますか？		
	Q19.10 (-)	政府は、4月16日に「緊急事態宣言」を全国に拡大しました。これは正しい判断だったと思いますか？		
	Q19.11 (Q13.10)	政府は、5月4日に全国の「緊急事態宣言」を5月末まで延長しました。これは正しい判断だったと思いますか？		
	Q19.12 * (-)	政府は、5月14日に一部地域を除く39県の「緊急事態宣言」を解除しました。これは正しい判断だったと思いますか？	1. 強くそう思う ↑ 4. どちらともいえない ↓ 7. 全くそう思わない	回答を逆転 した後平均 して合成
	Q19.13 (Q13.12)	政府は、緊急事態宣言を出したエリアでは「人との接触を8割減らすべきだ」という指針をだしましたが、この指針は正しいと思いますか？		
Q19.14 (-)	徹底的な自粛が成功し、緊急事態宣言が解除された後、前と同じくらいに、自由に外出したり、遊びにいたり、食事にいたりできるようになると、何となく思いますか？			
本研究で 用いた 自粛政策賛成度	Q19.9 (Q13.9)	政府は、4月7日に東京、大阪、福岡などで「緊急事態宣言」を発令しました。これは正しい判断だったと思いますか？		
	Q19.11 (Q13.10)	政府は、5月4日に全国の「緊急事態宣言」を5月末まで延長しました。これは正しい判断だったと思いますか？	1. 強くそう思う ↑ 4. どちらともいえない ↓ 7. 全くそう思わない	回答を逆転 した後平均 して合成
	Q19.13 (Q13.12)	政府は、緊急事態宣言を出したエリアでは「人との接触を8割減らすべきだ」という指針をだしましたが、この指針は正しいと思いますか？		

ただし\*がついている設問は逆転項目である

問番号における()外は第一回調査の質問番号を、()内は第二回調査の質問番号を表す  
問番号における(-)は第二回調査にその質問項目が含まれなかったことを表す  
田中ら(2020)で用いた項目には第二回調査に含まれなかった項目が複数あるため  
自粛政策賛成度を構成する変数を変更した

補表 3-3 合成変数の構成要素③

指標名	問番号	質問文	回答方法, 選択肢	合成方法
主観的リスク認知	Q11.1 (Q7.1)	あなたは【一回、外出】すると、どれくらいの確率で感染してしまうと思いますか？	1. 完全に0% 2. 約0% 3. 約10% 4. 約20% 5. 約30% 6. 約40% 7. 約50% 8. 約60%	Q11.1(Q7.1), Q11.4(Q7.4)の 回答を数値に 変換後平均し て合成
	Q11.4 (Q7.4)	あなたは、【一回、電車やバスやタクシーに乗る】と、どれくらいの確率で感染してしまうと思いますか？	9. 約70% 10. 約80% 11. 約90% 12. 約100% 13. 完全に100%	
	Q12 (Q8)	感染した人が100人いたとします。その内、誰かに感染させてしまう人は何人くらいいると思いますか？ (0人から100人までの値で、小数点以下は四捨五入して整数でお答え下さい。)		
	Q13 (Q9)	60歳以上の高齢者が100人感染したとします。その内、何人くらいが死んでしまうと思いますか？ (ただし、十分な医療があると仮定して下さい。0人から100人までの値で、小数点以下は四捨五入して整数でお答え下さい。)	0~100までの整数	
	Q14 (Q10)	40歳以下の人が100人感染したとします。その内、何人くらいが死んでしまうと思いますか？ (ただし、十分な医療があると仮定して下さい。0人から100人までの値で、小数点以下は四捨五入して整数でお答え下さい。)		
<p>Q11.1(Q7.1), Q11.4(Q7.4)の回答を数値に変換するにあたっては、1. 完全に0%→0 2. 約0%→0.01 3. 約10%→10 4. 約20%→20 5. 約30%→30 6. 約40%→40 7. 約50%→50 8. 約60%→60 9. 約70%→70 10. 約80%→80 11. 約90%→90 12. 約100%→99.99 13. 完全に100%→100、と している</p>				
外出時個人 対策行動実 施度	Q10.1(Q6-1)	外から帰宅したら手を洗う		1. 徹底的に行なう ↑ 3. 時々行なう ↓ 5. 全く行わない  回答を逆転し た後平均して 合成
	Q10.2(Q6-2)	外に出かけるときは【マスク】をする		
	Q10.3(Q6-3)	外出中は【目・鼻・口】を触らない		
	Q10.4(Q6-4)	外に出かけたとき、自分で、窓を開けたりして換気できる時は、換気するようにしている		
	Q10.5(Q6-5)	外出中、【換気の悪いところ】に長居しない		
	Q10.6(Q6-6)	外出中、【人との距離】を取るようになっている。		
	Q10.7(Q6-7)	外出中、【他人と会話しながら飲食する】ことは避けている		
他者への信 頼度	Q16.1(-)	ほとんどの人は信頼できると思う		1. 強くそう思う ↑ 3. どちらともいえない ↓ 5. 全くそう思わない  回答を逆転し た後平均して 合成
	Q16.2(-)	ほとんどの人は基本的に正直であると思う		
	Q16.3*(-)	人々はいつも、自分だけの利益ばかり考えていると思う		
	Q16.4*(-)	ほとんどの人は良心に基づいて正直であるわけではない。捕まることを恐れているだけだと思う		

ただし\*がついている設問は逆転項目である

問番号における○外は第一回調査の質問番号を、○内は第二回調査の質問番号を表す  
問番号における(-)は第二回調査にその質問項目が含まれなかったことを表す

補表 3-4 外生変数の詳細

変数一覧	変数詳細
Q1(Q1) : 年齢	
Q2(Q2) : 性別	男性=0, 女性=1
Q4(Q4) : 職業形態 (当てはまるもの1つ)	会社員 (正社員) 会社員 (契約社員) 派遣社員 パート・アルバイト 公務員 自営業・自由業 会社役員・経営者 学生 年金受給 専業主婦・主夫 無職 その他 (具体的に)
Q7(-) : 同居者 (当てはまるものすべて)	短大・大学・大学院・専門学生(浪人含む)の家族・親族 配偶者 自身のまたは配偶者の親 自身のまたは配偶者の祖父母 学生以外の親族 知人・友人・恋人
Q8(-) : コロナの情報源にしてるメディア (当てはまるものすべて)	テレビ(ニュース) テレビ (ワイドショー) ラジオ 新聞 Twitter・FacebookなどのSNS ネットニュースサイト その他のネットサイト
Q9(-) : コロナに関してそれぞれの意見をどれほど参考にするか (4. とても参考にしない)	テレビのキャスター・司会者 新聞の記者・記事 専門家 (医者や学者) の意見 政治家 (知事や議員) の意見 コメンテーターや評論家 (政治家や専門家以外の有名人) の意見 知人・友人 家族 かかりつけ医 インターネットの情報

変数一覧における () 外は第一回調査の質問番号を, () 内は第二回調査の質問番号を表す  
 変数一覧における (-) は第二回調査にその質問項目が含まれなかったことを表す

## 参考文献

- 1) 「政治家は私たちをここまで無防備にしていたのか エマニュエル・トッド「高齢者を救うために若者を犠牲にすることはできない」,LEXPRESS,2020年5月6日付け,(アクセス日2021年3月5日),<https://courrier.jp/news/archives/198895/>
- 2) 藤井聡・高野裕久(2020)『感染列島強靱化論 パンデミック下での大災害に備える公衆衛生戦略』晶文社
- 3) Ornelas,E.(2020).Lockdown 101: Managing economic lockdowns in an epidemic.
- 4) Alvarez,F.E.,Argente,D.,& Lippi,F.(2020).A simple planning problem for covid-19 lockdown (No.w26981).National Bureau of Economic Research.
- 5) Bol, D., Giani, M., Blais, A., & Loewen, P. J. (2020). The effect of COVID - 19 lockdowns on political support: Some good news for democracy?. European Journal of Political Research.
- 6) 「再度の緊急事態宣言,消費者の6割賛成——「外出時のマスク義務化」にも7割賛意」,ITmedia ビジネスONLINE,(アクセス日2021年3月5日)  
<https://news.yahoo.co.jp/articles/efd349f529b39eaf6e5e1016066b1aefe995545>
- 7) (公社)土木学会 土木計画学研究委員会:新型コロナウイルスに関する行動・意識調査(概要)
- 8) 「コロナ「自粛警察=歪んだ正義」批判で隠れる本質…自己犠牲を厭わない真面目な人ほど陥る」,Business Journal,2020年5月14日付,(アクセス日2021年3月5日),[https://biz-journal.jp/2020/05/post\\_157158.html](https://biz-journal.jp/2020/05/post_157158.html)
- 9) 「「自粛警察」危うい正義感 強まる圧力「店シメロ」—専門家が警鐘・新型コロナ」,JIJI.COM,2020年5月9日付,(アクセス日2021年3月5日),<https://www.jiji.com/jc/article?k=2020050900144&g=soc>
- 10) 「【「自粛警察」】正しく恐れているか」,徳島新聞,2020年5月18日付,(アクセス日2021年3月5日),<https://www.kochinews.co.jp/article/368040/>
- 11) Sakakibara, R., and Ozono, H. : 日本における新型コロナウイルス感染症をめぐる心理・行動に関する調査—予防行動・将来の見通し・情報拡散に焦点を当てた検討—, PsyArXiv, 2020.
- 12) 田中 駿也,岡村 元太郎,川端 祐一郎,藤井 聡:新型コロナウイルス対策を巡る市民の態度及び行動に関する研究,2020.
- 13) Jørgensen, F.J., Bor, A., Lindholt, M.F., and Petersen, M.B.: Lockdown Evaluations During the First Wave of the COVID-19 Pandemic, OSF, 2020.
- 14) Yıldırım, M., Geçer, E., & Akgül, Ö. (2020). The impacts of vulnerability, perceived risk, and fear on preventive behaviours against COVID-19. Psychology, Health & Medicine, 1-9.
- 15) Oh, S. H., Lee, S. Y., & Han, C. (2020). The effects of social media use on preventive behaviors during infectious disease outbreaks: The mediating role of self-relevant emotions and public risk perception. Health communication, 1-10.
- 16) 渡辺 努,藪 友良.:日本の自発的ロックダウンに関する考察,Working Papers on Central Bank Communication,26,2020.
- 17) 「メディア報道が自粛に影響、7割 信頼度、トップは新聞」, KYODO,2020年1月24日付,(アクセス日2021年3月5日),  
<https://news.yahoo.co.jp/articles/375fcd47192b113810633e9c5faeb2b219442f1b>
- 18) Nakayachi, K., Ozaki, T., Shibata, Y., and Yokoi, R. : Why do Japanese people use masks against COVID-19, even though masks are unlikely to offer protection from infection?, Frontiers in Psychology, 11, 1918, 2020<sup>2</sup>.  
(2021??受付)

## THE CHANGE OF THE PUBLIC BEHAVIOR AND ATTITUDE TOWARD COVID-19

Gentaro OKAMURA, Yuichiro KAWABATA and Satoshi FUJII

The spread of the Covid-19 has caused economic and health damage and social problems in many countries around the world. In Japan as well, There are economic damage due to self-restraint following the declaration of a state of emergency by the government and social problems caused by the "vigilantism". However, there have been few studies on the attitudes and public behaviors of the Japanese people toward these issues, and few of them have taken into account the chronological changes.

This study, based on the "Behavioral and Attitudinal Survey on Covid-19" conducted in May and October 2020. It was found that health fear, fear of the eyes of others, degree of agreeing with self-restraint, and degree of vigilantism significantly decreased in October compared to May 2020. It was revealed that those who referred to TV anchors and hosts had stronger healthy fears, fear of other people's eyes, and were more likely to be vigilant.